



Michigan Newsletter

November 2025

No.14

ミシガン州経済交流駐在員

経済交流

1. アニメ・コスプレイベントでの滋賀県 PR !
2. カラマズー美術館にて近江の地酒 イベント開催

ページ 1 ~ 3

教育交流

1. 甲賀市の中学生の皆さん、ようこそミシガン州へ
2. デウイット高校キャリア教育イベントでの出展
3. ランニング市エヴェレット高校日本語クラスを訪問

ページ 3 ~ 5

草の根交流

1. 不思議、怖い、でもなんだかかわいい日本の妖怪を紹介
2. 姉妹都市の意味とは ~ランシング大津姉妹都市委員会ファンドレイジングイベント~

ページ 6 ~ 7

経済交流

1. アニメ・コスプレイベントでの滋賀県 PR !

10月30日から11月2日にかけて、デトロイトで、日本のアニメ、ゲーム、ポップカルチャーをテーマにした中西部最大のアニメ・コスプレイベント、Youmacon が開催されました。2005年から毎年開催されているこのイベント、一見、姉妹県州、姉妹都市活動とは無縁に思えますが、ミシガン滋賀姉妹県州委員会として初めて出展する機会をいただき、主に、滋賀県の観光の紹介、姉妹県州活動の紹介、日本の玩具体験などのアクティビティを提供しました。



マーケットプレイス内のブースの様子



ブースを設置した場所は、マーケットプレイスという、プラモデルやぬいぐるみ、アニメ関連グッズの店が並ぶホールです。単にモノを売る場でなく、ミシガン州内のコミュニティや幅広い日本文化を伝える場にしていきたいという主催者側の思いと、ミシガン滋賀姉妹県州委員会メンバーのアニメをきっかけに広く日本を身近に感じ、姉妹活動に目を向けてもらいたいという思いが一致した出展でした。

コスプレをした人たちが熱気のある会場で、日本への旅行や日本文化への関心は高く、滋賀県には「けいおん！」の舞台となった旧豊郷小学校や、「ちはやふる」の聖地である近江神社など、人気アニメの聖地があることを紹介したり、日本を訪れる機会がなくても、姉妹県州、姉妹都市の活動があることを伝えました。滋賀県のことを初めて聞いた、友好親善使節団のホストファミリーをしてみたい、という方もいました。

コスプレという若者のイメージでしたが、30～40代の来場者や、家族連れも多く、アニメの力の裾野の広さを感じました。アニメはソフトパワーとして、経済効果だけでなく、日本への関心を高めているとよく言われますが、アニメを切り口に、日本について多方面に興味を広げていくきっかけを来年以降も作っていかれたらと思います。



2. カラマズー美術館にて近江の地酒イベント開催



11月15日、ミシガン州の南西部に位置するカラマズー市は、森と湖に恵まれた、なだらかな丘陵が続く町で、留学生の受け入れ数も多いウエスタン・ミシガン大学があることでも知られています。この町の文化の中心であるカラマズー美術館からの依頼を受け、近江の地酒を紹介するイベントを実施しました。美術館では、これまでから日本関係のイベントや展示が行われていましたが、日本酒のイベントは初めての試みとのことでした。私にとっても、これまで地酒の試飲提供はしたことがあったのですが、地酒のプレゼンテーションやペアリングを行うのは初めてで、これまでにない経験でした。

ちなみに、カラマズー市は静岡県沼津市と姉妹都市ですが、滋賀県との姉妹都市関係はなく、20人の最小催行人数が上回るかとも心配していましたが、30人の席が満席になり当日を迎えました。ちなみに当日の朝もまだ空気がないかという問い合わせもあったそうで驚きでした。

今回のイベントでは、日本酒の基本知識や近江の地酒の特徴の説明をしながら、ミシガンで流通している近江の地酒の3種類を美術館に用意いただき、参加者に提供しました。冷酒で提供した後、温かくして提供し、味わいの違いを感じてもらったり、ミシガン州内のスーパーでも簡単に手に入るアメリカ国内で製造された日本酒を間に挟み味の違いを感じてもらったり、工夫を凝らしました。さらに、日本食とのペアリングにも挑戦しました。3種の地酒に合わせて、美術館に用意いただいた寿司など3種類の料理をベジタリアンにも対応した形で提供しました。料理をサー



料理とのペアリングの前に日本のおつまみを体験。

ブするタイミングとプレゼンテーションのタイミングなど、事前に美術館側と何度も打ち合わせたにもかかわらず、スムーズに行かない部分もあり、進行の難しさも感じました。

とはいえ、参加者の皆さんからは、プレゼンテーションの途中にも、季節によって違う日本酒はあるか、日本人が飲むお酒のうち日本酒はどれくらいの割合を占めているのか、など様々な質問が飛び出し、関心の高さを感じました。私も逆にゲストの方から質問を受け、好きなアメリカのお酒は何かと聞かれ、迷わずクラフトビールと答えました。9月にホイットマー州知事が滋賀県を訪問しクラフトビールを楽しまれたことなども紹介しました。



さらに、会場内に、滋賀テーブルをセッティングし、近江の地酒、観光、陶器等の情報提供を行い、参加者の方にイベントの前後に立ち寄ってもらいました。7月にミシガンから滋賀県を訪問した友好親善使節団のメンバーにプレゼントされた信楽焼のおちょこや、ミシガン州内のアーティストが作った盃なども展示しました。

カラマズーは、日本人コミュニティや日本料理レストランの多いデトロイト近郊からは遠く、日本文化を感じる機会はそう多くないのではと思います。滋賀県の知名度ももちろんゼロに近かったのですが、その分滋賀県とミシガン州の姉妹関係を新鮮に感じてくださったようです。ミシガンという観光船があることもとても驚かれていました。

今回参加者は30人限定でしたが、美術館のホームページ以外にも多数のメディアに取り上げてもらい、参加した人以外にも近江の地酒の存在が伝わったのではないかと思います。地酒のイベントは予算や条件が揃わないと開けないため、あらためて、機会をくださったカラマズー美術館とスタッフに感謝します。



教育交流

1. 甲賀市の中学生の皆さん、ようこそミシガン州へ

11月7日～15日、甲賀市主催「甲賀市・ミシガン州中学生国際交流事業」に参加する甲賀市の中学生の皆さんが州内の姉妹都市を訪れました。甲賀市はミシガン州内に姉妹都市が3つあり、今回は、デウィット市・デウィットチャータータウンシップに6名、マーシャル市に4名の中学生が滞在し、パートナーの中学生の家庭に滞在しながら学校に通い、現地での生活を通して交流を深めました。



11月10日にデウィット中学校で歓迎会が開催され、デウィット学区の教育長はじめ市関係者や学校関係者の皆さんが多数参加される中、駐在員は来賓として参加させてもらい、交流を支えてくださる皆さんへの感謝を伝えるスピーチを行いました。



かつては多くの姉妹都市で中学生交流が行われていましたが、今では過去の出来事になっている姉妹都市がほとんどです。両方の中学生同士が交流しているのを目の前で見られることはうれしく、そして、この情景が当たり前ではなく、教育委員会関係者をはじめ、たくさんの人たちの理解と、継続のための努力に支えられていることを改めて感じました。

信頼と人と人とのつながりが重要な交流事業ですが、デウィット中学校の先生はもちろん、生徒の保護者が国際交流やこのプログラムへの理解が深いことも痛感しました。仕事で忙しい中、この週を迎えるまでに何度も夜のミーティングを重ね、生徒が滞在中の訪問先のアレンジから同行も行う保護者の貢献は計り知れません。私からも感謝の気持ちを伝えると保護者からは、「子供たちに国際的な体験、グローバルな感覚を養うためにこの草の根の交流は大きな意味を持つ。」「サポートするのは喜びであり、本当に楽しんでやらせてもらっている。」との声が聞かれました。これまでから、いやいやボランティアしている人はこちらでは見たことがないのですが、やる気と情熱、何より楽しんでいるという姿に、感謝とともに尊敬の念を抱きました。

一週間ほどの短い間に英語や日本語を織り交ぜながらすっかり仲良くなった学生達、中には家族ぐるみでオンラインで交流している家庭もあるようで、こういった学生や家庭の交流が、お互いの文化や価値の理解につながり、ひいては2つのコミュニティの発展につながっていくことを感じました。

2 デウィット高校キャリア教育イベントでの出展

11月6日(水)、デウィット市で行われた中高生向けのキャリア教育イベントにランシング・コミュニティ・カレッジと共同でブース出展を行いました。このイベントでは、デウィット市や湖南市の友好都市であるセントジョーンズを含む、クリントン郡内の中学校、高校に通う8年生と10年生(日本の中2、高1)が会場内のブースをまわり、業界や職種、求められるスキル等について学びました。



今回、ランシング・コミュニティ・カレッジでの日本語をはじめとする外国語プログラムやミシガン州立大学連合日本センター(JCMU)のプログラムの紹介、書道や折り紙といった日本文化体験を提供しました。



書道に関心を持つ学生が多く、ブースには多くの学生が立ち寄ってくれました。学校で学んでいる外国語はスペイン語という人が目立ちましたが、日本語を習っており、今日ちょうど習った漢字だと言って書いてくれる人もいました。アニメも好きで日本に

行ってみたい、今通っている学校には日本語のクラスはないが、大学でぜひ勉強したい、という声も聞かれました。JCMU のちらしを渡し、姉妹県で日本語を学ぶことができることを伝えました。この中から将来滋賀に来てくれる生徒がいるのかも、と思うと嬉しい時間でした。

3 ランシング市エヴェレット高校日本語クラスを訪問

11月17日、ランシング市南部に位置し、約1000人が学ぶエヴェレット高校では、1～2年生に5クラス日本語の授業が提供されており、130人が受講しています。

ランシング市内には3つの公立高校があるものの、現在日本語の授業を提供しているのはこの高校のみ。1990年代には、市内に6名の日本語教員がいたそうですが、中国語に押されるなど情勢は変わり、現在ではたった1人になっています。このたった一人の日本語教員がランシング大津姉妹都市委員会のメンバーだったことから、日本語授業に参加する機会を得ました。



エヴェレット高校外観。マジック・ジョンソンの母校としても知られる。

訪問した1クラス目は、とても明るい1年生。日本語を習い始めてたった10週間ですが、日本語での簡単な自己紹介をしてくれました。大津市とランシング市のロゴの入ったしおりに筆で好きな漢字を書く書道体験を行いました。

2クラス目の2年生の皆さんには、同じ書道体験に加え、姉妹県である滋賀県や姉妹都市である大津市についてプレゼンをする時間もいただきました。JCMUのことを紹介しましたが、4年生の州立の大学に進学することを計画している生徒は少ないように見受けられました。(JCMUはミシガン州内の15の州立大学に在籍していなくても参加できますが、その場合、費用が変わってきます。)とはいえ、教室のドアの入り口にはJCMUのちらしが貼ってあり、頭の片隅に置いてもらえたらと思いました。



ランシング地域は移民や難民を積極的に受け入れてきていたこともあり、この学校の生徒が話す言葉は54言語にのぼるとのことです。とはいえ、ランシング市では日本人は珍しいようで、この日本語教員いわく、生徒にとって生の日本人に会って日本語を聞くのはとても貴重な機会とのことでした。

様々な言語や文化が入り混じる中、高校生の中に日本の言語や文化に触れる機会があるのは素晴らしく、学校の理解や、日本語教員の努力に感謝し、姉妹県州、姉妹都市があるということをきっかけに、日本語の授業や日本文化により興味を持ってもらえたらうれしいです。

草の根交流

1 不思議、怖い、でもなんだかかわいい日本の妖怪を紹介

11月1日、ノバイ公立図書館にて、ひのきバイリンガル教育振興財団が主催する日本の妖怪をテーマにしたイベントがハロウィンの時期に合わせて開かれました。琴や太鼓の演奏、訪問中の島根大学大学生による妖怪に関するプレゼンテーション、妖怪をモチーフにした工作などの盛りだくさんの内容。英語圏のモンスター、デーモン、ゴースト、のどれにもぴったりこない、「妖怪」について、堅苦しくなく楽しく知ることができるユニークなイベントとあって、子供連れ、学生の参加も多く、200名分ほど用意されたホールの席が一杯になるほどの集客力でした。



日本の民間伝承に登場する、人間の理解を超えた不思議な存在の妖怪には、河童、天狗、ろくろ首、からかさ小僧など様々な種類があり、それぞれがとてもユニークで特徴のある見た目をしており、参加者の興味を引いたようです。

今回滋賀ブースでは、普段から愛用しているアマビエ版の信楽焼たぬきをフィーチャーしました。疫病退散で知られ、コロナの時にも愛されていたというユニークなこの妖怪を信楽焼を通じて知ってもらいました。



また、長浜市虎姫高校の生徒が9月に大阪の万博パビリオンにて、ミシガン州知事、ノバイ市長とシティマネジャーにインタビューして作成された新聞記事を長浜の観光情報とともに設置しました。ノバイ市の皆さんに長浜市との交流について知ってもらう機会にもなりました。

2 姉妹都市の意味とは ～ランシング大津姉妹都市委員会ファンディングイベント～

11月8日、ランシング市内の教会にて、ランシング大津姉妹都市委員会が主催するファンディングイベントが行われ、駐在員も準備、当日の運営など、全面的に協力しました。

参加者は一人10ドルを入場時に払うと、日本のカレーライスの食券をもらえ、フロア内のアクティビティに参加、展示物の見学等ができるというスタイルです。カレーライスは、ベジタリアンにも対応できるよう、肉なしでしたが、野菜をたっぷり使いコクのある味に仕上が



りました。さすが姉妹都市委員会、自宅に炊飯器があるメンバーも多く、持ち寄った炊飯器でお米もおいしく炊き上がりました。

フロア内には、折り紙コーナーや、生け花や着物などの展示等があり、その中の一つとして、駐在員は書道のブースを運営しました。しおりやうちわに筆で好きな漢字を描き、持ち帰ってもらいました。見本の漢字以外に、こんな言葉を書きたい、というリクエストも多く、感謝祭のある月とあって「感謝」や、他にも「挑戦」「富士山」「ミシガン州民」など皆さん思い思いの言葉を書いて楽しんでもらいました。



しおり作成コーナーの様子。

今回のイベントは、運営のための資金を集めるのが目的ですが、デトロイト市やその近郊と比べて日本関連の大きなイベントのないランシング地域で、コミュニティの人たちに姉妹都市委員会の存在を伝えるよい機会になりました。ミシガン州立大学の学生、盆栽が大好きで日本訪問にも興味があるグループ、駐在員のオフィスのあるミシガン経済開発公社の同僚やその家族も足を運んでくれました。



大国であるアメリカに住む人たちにとっての姉妹都市の意味は、日本にいる私たちにとっての意味と少し違う気がしています。アメリカには 50 の州があり、同じ国内とはいえ、州ごとに法律や制度、風土や文化も異なり、50 の違う国が集まっているようなものです。一生のうちにアメリカ中を旅するのも難しく、他の国に行かなくても、興味を持たなくても十分に一生を過ごせるのは、小さな国で、他の国に行ってみたい、という気持ちが比較的わきやすい日本とは環境が違っていると感じるからです。

もちろん、観光船ミシガンで働くプログラムに参加した人達、教員交流や高校生交流に参加した人達など、姉妹交流が始まったおよそ 60 年前から、ミシガン州内のたくさんの人たちがこの姉妹交流に興味を持ち、実際に、日本、滋賀県を訪れているのは事実ですが、世間一般に言えば多数派とは言えないと思います。

アメリカに住む人たちにとって、すでに広い世界を知っている、他の国を知らなくてもいい、という固定観念を取り払い、他の国や文化に興味を持つ身近なきっかけとなるのが姉妹都市の大きな価値だと感じます。こんな時代だからこそ、姉妹都市の存在を通して世界を広げてもらえるよう発信していけたらと思います。

以上

